

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業  
分担研究報告書

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン：アトピー性皮膚炎の合併症 アレルギー疾患に関する解説の作成

研究代表者 下条直樹 千葉大学大学院医学研究院小児病態学 教授  
研究協力者 藤田雄治 千葉大学大学院医学研究院小児病態学 医員

### 研究要旨

アトピー性皮膚炎は食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎など他のアレルギー性疾患を合併することが多い。各アレルギー性疾患はそれぞれ密接に関連しており、それぞれの専門科と連携をとり、総合的な管理を心掛ける必要がある。

われわれは、「アトピー性皮膚炎の合併症 アレルギー性疾患」に関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説などの情報をもとに解説を作成した。

#### A. 研究目的

アトピー性皮膚炎は食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎など他のアレルギー性疾患を合併することが多い。各アレルギー性疾患はそれぞれ密接に関連しており、各専門科との連携が重要である。

食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎に関して、アトピー性皮膚炎との関連や、その診療における注意点などを解説することを目的とした。

#### B. 研究方法

アトピー性皮膚炎に合併することの多いアレルギー性疾患に関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説などの情報をもとに、診療上重要な情報について解説文を作成した。作成した文章は、研究班員による議論と推敲を得て、最終版を作成した。

#### C. 研究結果

アトピー性皮膚炎には他アレルギー性疾患

を合併することが多い。各アレルギー性疾患の病態はそれぞれ密接に関連しており、各専門科と連携しながら総合的な管理が重要である。

食物アレルギーに関しては、その発症の機序として「経皮感作」と「経口免疫寛容」の重要性を示した「二重抗原曝露仮説」の概念が提唱された。早期スキンケアによる介入では食物アレルギー発症予防効果は示されておらず今後も検討が必要である。離乳早期の鶏卵摂取は食物アレルギーの発症率を減少させることが示されており経口免疫寛容の重要性が示された。

小児のアトピー性皮膚炎患者では、気管支喘息の合併率は、一般有病率の1.8倍と報告されている。気管支喘息合併が考えられる場合には皮膚科単独ではなく小児科、内科と連携して信用にあたるべきである。

アレルギー性鼻炎の合併も多く、特に我が国ではスギ花粉の飛散時期には注意を要する。スギ花粉の皮膚への接触によりアトピー性皮膚炎を増悪させることがある。鼻汁や鼻の掻破

などによる外的刺激は鼻周囲の皮膚症状を悪化させるため、アレルギー性鼻炎が難治である場合には耳鼻科との連携が重要である。

アレルギー性結膜炎は眼瞼の皮膚症状の増悪因子であり、白内障などの眼合併症を引き起こす可能性があるため眼科との連携が重要である。

#### D. 考察

アトピー性皮膚炎の治療には他アレルギー性疾患の適切な管理が重要である。各アレルギー疾患に関して各診療科と連携して診療にあたることが大切である。

#### E. 結論

アトピー性皮膚炎はその他のアレルギー性疾患と密接に関連しており、各診療科と連携し

総合的な管理が必要である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

<論文発表>

アトピー性皮膚炎に合併する各アレルギー性疾患に関する論文発表はない。

<学会発表>

アトピー性皮膚炎に合併する各アレルギー性疾患に関する学会発表はない。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他